

第112期
報告書

2015 / 6 / Vol.49

株主のみなさまへ



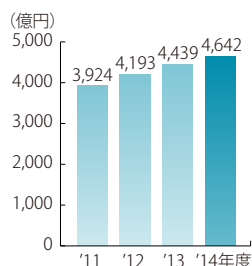
連結決算ハイライト

	2012年3月期 (2011年度)	2013年3月期 (2012年度)	2014年3月期 (2013年度)	2015年3月期 (2014年度)
売上高 (億円)	3,924	4,193	4,439	4,642
営業利益 (億円)	220	245	317	390
経常利益 (億円)	209	272	350	420
当期純利益 (億円)	106	152	233	265
総資産 (億円)	3,196	3,497	3,587	3,791
純資産 (億円)	1,218	1,424	1,669	1,956
1株当たり当期純利益 (円)	35.8	51.4	78.7	89.6
1株当たり配当金 (円)	10	12	15	18
1株当たり純資産 (円)	384.5	451.4	534.7	632.3
総資産利益率(ROA) (%)	6.3	8.1	9.9	11.4
自己資本利益率(ROE) (%)	9.6	12.3	16.0	15.4
設備投資額 (億円)	159	184	165	172
減価償却費 (億円)	183	169	162	155
有利子負債 (億円)	1,176	1,071	996	866

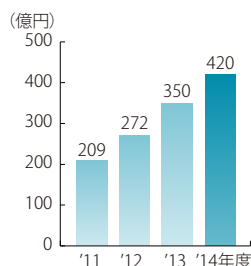
※ROAは経常利益を期中平均総資産で割って計算しております。

※ROEは当期純利益を期中平均自己資本で割って計算しております。

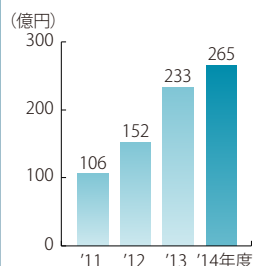
売上高の推移



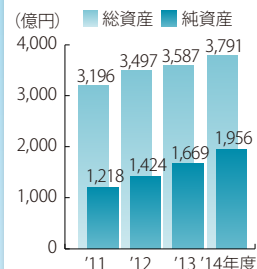
経常利益の推移



当期純利益の推移



総資産および純資産の推移





2014年度 (2015年3月期) 経営成績と 今後の取り組み

代表取締役社長
山田 政雄

2014年度の経営成績

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2014年度(2015年3月期)における当社の事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国の経済は、消費税引き上げや輸入商品の物価上昇により個人消費に弱い動きが見られた一方、円安による輸出環境の改善により、企業業績の向上がみられました。世界経済は、米国では堅調な個人消費や雇用者数の増加に支えられ景気が拡大し、世界経済を牽引しました。中国では成長率が鈍化しており、また欧州では雇用情勢や財政状態に持ち直しの動きはみられるものの停滞した状況が続きました。

当社グループの事業環境については、需要面では、世界的に自動車関連製品が引き続き堅調に推移しました。また、スマートフォンや新エネルギー向けの需要も堅調に推移しました。金属価格については、亜鉛は堅

調に推移したものの、下期に入るとドル高や原油安を背景に貴金属や銅は下落しました。また、為替相場については、日銀の金融緩和と政策などにより1ドル120円台まで円安が進みました。

当社グループは、このような状況のなか、「中期計画V」の基本方針に沿って、成長が続くアジア市場への事業展開や、新エネルギーやリサイクルなど成長分野への投資を継続するとともに、市場・ユーザーの状況や変化に対応し、生産性向上・受注拡大に向けた施策を実行してきました。

これらの結果、当期の連結売上高は前期比202億円増の4,642億円となり、連結営業利益は同72億円増の390億円、連結経常利益は、同69億円増の420億円、連結当期純利益は同32億円増の265億円となりました。

なお、当期の配当につきましては、当期の業績、今後の事業展開、財務体質の強化などを総合的に勘案し、前期比3円増配の1株当たり18円といたしました。

今後の取り組みと重点施策

2015年度は新たな中期計画のスタートの年であり、市場動向を見極めながら、次に挙げる施策を着実に実行していきます。

● 海外事業のさらなる拡大

環境・リサイクル部門では、東南アジアにおいて、既存拠点での廃棄物処理拡大や新たに進出したミャンマーでの廃棄物処理施設の建設を進めます。製錬部門では、タイの亜鉛加工工場の増産と東南アジア市場への拡販を進めます。金属加工部門では、新たに進出した台湾での伸銅品加工拠点の立ち上げやタイでの貴金属めっきのライン増強を進めます。熱処理部門では、新たに進出したメキシコにおいて熱処理炉のメンテナンス事業を開始し、インドにおいて熱処理加工の新規拠点建設に取り組みます。

● 成長市場・周辺分野への展開による事業拡大

ハイブリッドカーなどの自動車分野では、コネクタ向け高特性銅合金の開発・拡販、高圧端子向け高強度めっきの量

産化に取り組みます。情報通信機器分野では、薄型で強度の高い銅合金の拡販や次世代ディスプレイ向け電極材料の開発を進めます。パワー半導体分野では、窒化物半導体の生産体制の強化を図ります。

● 事業競争力の継続的強化

環境・リサイクル部門では、秋田において低濃度PCB処理施設の建設を進めます。製錬部門では、スズやアンチモンなどの回収をさらに強化し、白金族原料の海外集荷拡大と処理能力増強に取り組みます。電子材料部門では、センサー向けLEDや電極材料向け導電材料の拡販を図ります。金属加工部門では、伸銅品や金属セラミック回路基板の増産、生産性向上に取り組みます。熱処理部門では、国内拠点の再編による生産体制効率化に取り組みます。

<各事業部門の重点施策>

環境・リサイクル部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマーでの処理施設建設推進など東南アジアでの廃棄物処理事業の拡大 ・大型公共投資案件関連の需要取り込みに向けた土壌浄化体制の強化 ・北米やアジアを中心とした海外からの集荷拡大による金属リサイクルの強化
製錬部門	<ul style="list-style-type: none"> ・タイの亜鉛加工工場の増産と東南アジア市場への拡販 ・小坂製錬(株)の不純物対応力強化によるスズやアンチモンなどの回収強化 ・アラスカやメキシコでの鉱山開発の推進
電子材料部門	<ul style="list-style-type: none"> ・近接センサー、医療センサー向け高出力LED、導電材料向け銀粉の拡販 ・アーカイブ用データテープ向け次世代記録材料の生産能力拡大 ・パワー半導体向け窒化物半導体の生産体制強化、新規ユーザー向け拡販 ・ハイブリッドカーやスマートフォン向け高特性銅合金の開発・拡販
金属加工部門	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾での伸銅品加工拠点の立ち上げ、タイでの貴金属めっきラインの増設 ・高い放熱性や信頼性を有する金属セラミック回路基板の開発・量産化
熱処理部門	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコでのメンテナンス事業の開始、インドでの熱処理加工の新規拠点建設 ・国内での熱処理炉製造・メンテナンス拠点の再編 ・コスト競争力の高い小型熱処理設備の導入、新規表面処理の開発・導入

2015年度(2016年3月期)の見通し

世界経済は米国を中心に回復基調にあり、わが国においては円安による輸出環境の改善など、総じて景気回復に向けた動きが継続しています。

このような状況のなか、海外事業のさらなる拡大や成長市場・周辺分野への展開による事業拡大、事業競争力の継続的強化に向けた諸施策を着実に実行することで、新たな中期計画の達成を目指します。

2015年度については、売上高は前期比192億円減の4,450億円、経常利益は同4億円増の425億円を計画しています。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年度計画

(単位:億円)

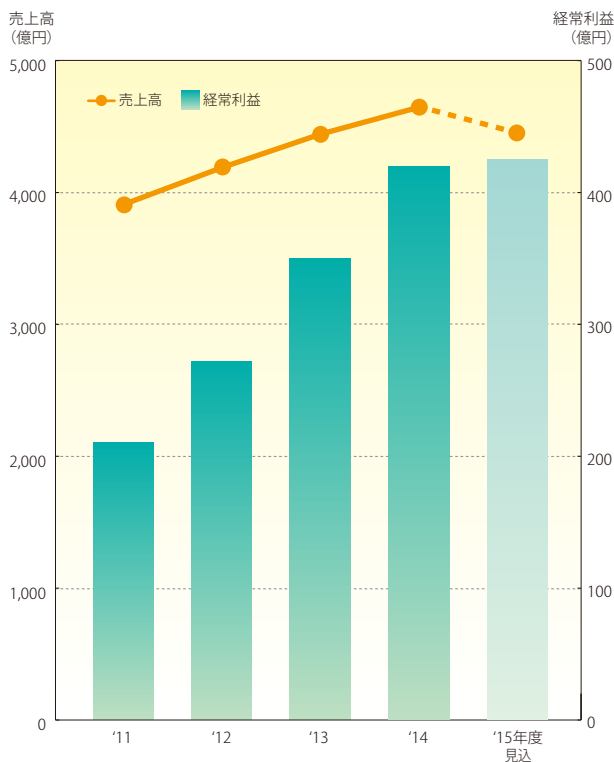
	2014年度実績	2015年度計画	増減
売上高	4,642	4,450	△192
営業利益	390	425	+34
経常利益	420	425	+4
当期純利益	265	270	+4

※2015年度の売上高は、銀粉の販売が委託加工費での取引へ一部変更されたことにより減少しています。

相場前提

	2014年度		2015年度
	上期実績	通期実績	通期前提
為替 (円/\$)	103.0	109.9	115.0
銅 (\$/t)	6,890	6,554	6,000
亜鉛 (\$/t)	2,192	2,175	2,200
インジウム (\$/kg)	692	650	500

これまでの業績推移と2015年度の見通し



DOWAの伸銅品事業

～成長するアジアでの事業拡大～

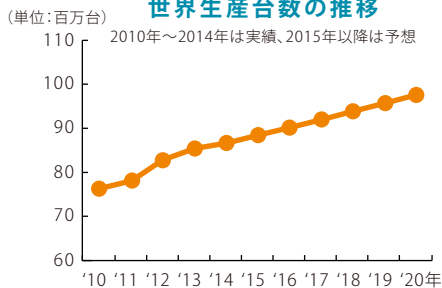
●生産拡大が続くアジア

自動車やスマートフォンはグローバルな需要拡大が続いています。アジアはこれら製品の中心的生产エリア

となっており、今後も生産拡大が期待されています。

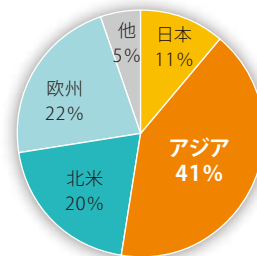
自動車生産の動向

世界生産台数の推移



今後も着実な
生産拡大が
見込まれる

自動車生産台数 地域構成



アジアが
世界生産台数の
40%以上を占める

2014年実績

※各種調査会社資料より当社作成

●伸銅品の主な用途

伸銅品は自動車の電装部品やスマートフォンのイヤホンジャック、電流を制御するパワーモジュールの放熱基板などに使われ、高い導電性や強度・曲げ加工性などが求められます。

当社はこうしたニーズを満たす高特性銅合金で高いシェアを有しています。また、スリットやめっき、プレスなど様々な加工を行い、お客様の多様なニーズに対応しています。

伸銅品が出来上がるまで

铸造

圧延・焼鈍



加工

スリット

様々な幅に切断

めっき

耐久性などを高める

プレス

様々な形状に打ち抜く

伸銅品



主な用途



自動車のワイヤーハーネス
などの接続部分

● 伸銅品事業のアジア展開

こうした状況のなか、当社では銅合金の加工拠点拡充を進め、アジアにおいて事業を拡大していきます。

東アジアでは、台湾において新たにプレス加工拠点を立ち上げ、上海においてはスリット、めっき加工の設備増強を進めていきます。深圳の営業拠点も活用し、中国をはじめとした東アジア市場への拡販を進めていきます。

東南アジアでは、タイにおいて、スリット、めっき、プレス加工を行っています。今後はさらに能力を増強し、自動車向けを中心に拡販を進めていきます。

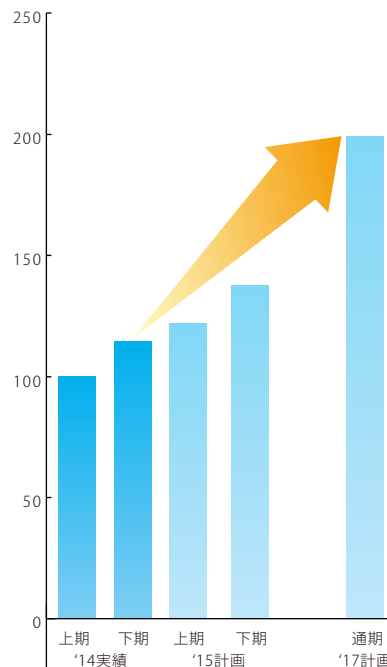
こうした取り組みと合わせて、日本での銅合金の生産能力増強を進め、拡大するアジアの需要を取り込み、引き続き事業を成長させていきます。

アジアの拠点と事業展開



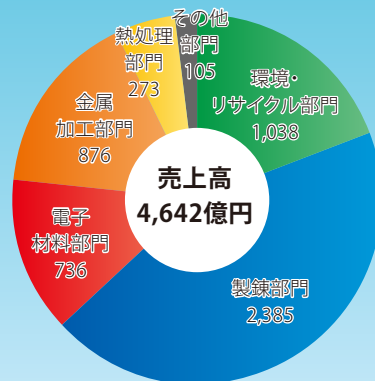
アジア拠点の販売量推移

月平均販売量（2014年度上期の販売量=100）



部門別の 営業状況

部門別売上高構成 (2014年度)



※各部門の売上高には、連結調整による消去分774億円を含んでおります。

凡例 — 通期売上高 — 通期営業利益

環境・リサイクル部門

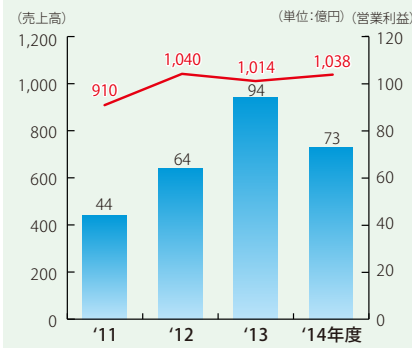
廃棄物処理は、国内の産業廃棄物発生量が横這いのなか、一部処理品目では上期に一時的に受注が落ち込みましたが、集荷ネットワークを活かして受注拡大を図りました。土壌浄化は、不動産市況に緩やかな回復が見られるなかで、堅調に受注を拡大しました。リサイクルは、電子部品スクラップの国内外での集荷拡大を図りました。海外事業では、インドネシアやタイなど東南アジアにおける廃棄物処理事業の拡大に努めました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比2%増の1,038億円となりましたが、営業利益は処理品目の構成差等により、同23%減の73億円となりました。



タイの廃棄物処理施設

部門別連結売上高・営業利益の推移



製錬部門

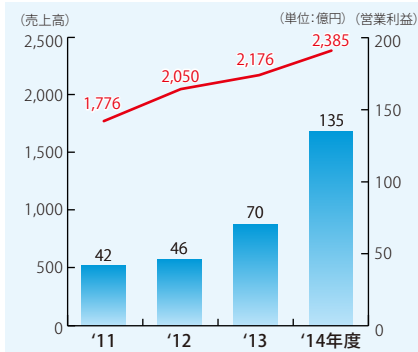
金属価格については、亜鉛は堅調に推移したものの、下期に入るとドル高・原油安・世界経済失速の懸念等を背景に貴金属や銅は下落しました。為替相場については、日銀の金融緩和政策などにより1ドル120円台まで円安が進みました。このようななか、各製錬所の稼働は引き続き順調に推移し、アンチモンなどの副産金属や排ガス浄化触媒から回収されるプラチナなどの白金族類を含め、生産量を確保しました。また、タイに新設した亜鉛加工工場の稼働は順調に推移しました。コスト面では電力代値上げの影響を受けるなかで、電力原単位や物品費の削減に努めました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比10%増の2,385億円、営業利益は同92%増の135億円となりました。



使用済み自動車排ガス浄化触媒

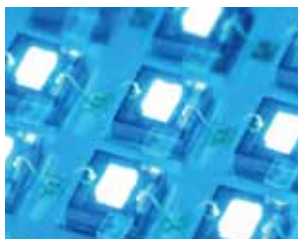
部門別連結売上高・営業利益の推移



電子材料部門

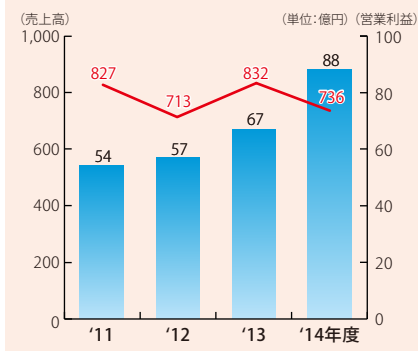
半導体材料製品は、パソコン向けなどが低迷しましたが、拡大するスマートフォン向け需要を取り込み、販売を伸ばしました。導電材料製品は、銀粉の拡販に努め、機能材料製品は、次世代品の拡販を進めました。また、市場ニーズに応える新規製品開発に引き続き取り組みました。

これらの結果、当部門の売上高は、銀粉の販売が委託加工費での取引へ一部変更されたことにより前期比12%減の736億円となりましたが、営業利益は同31%増の88億円となりました。



深紫外LED

部門別連結売上高・営業利益の推移



金属加工部門

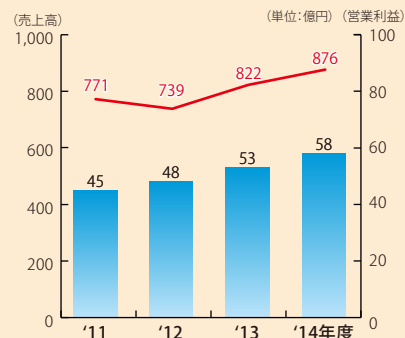
端子やコネクタに使われる伸銅品やめっき品は、自動車生産が比較的堅調に推移するなかで新規拡販を図りました。また情報通信端末向けでは、パソコン関連の需要が低迷するなかで、スマートフォン関連の受注拡大を図りました。金属セラミック回路基板は、海外を中心とした堅調な設備投資を背景に産業機械向けの販売を伸ばし、鉄道向けについても拡販を進めました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比7%増の876億円、営業利益は同8%増の58億円となりました。



伸銅品

部門別連結売上高・営業利益の推移



熱処理部門

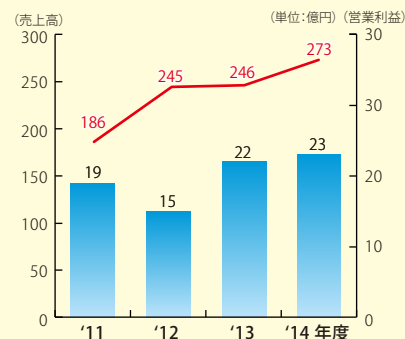
熱処理加工は、海外の自動車市場の成長に合わせてインドや米国で受注を拡大するとともに、海外拠点の設備増強を進め、新たに設立したインドネシアの工場も順調に操業を拡大しました。一方、国内拠点では、国内自動車生産が頭打ちの状況にあるなかで、生産性改善による競争力強化を図り、熱処理炉の拡販やメンテナンス需要の獲得に努めました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比11%増の273億円、営業利益は同4%増の23億円となりました。



インドネシアの熱処理拠点

部門別連結売上高・営業利益の推移



地図で見るDOWAグループ

2015年4月30日現在

DOWAエコシステム(株)

- 1 蘇州同和資源综合利用有限公司
- 2 蘇州同和環保工程有限公司
- 3 江西同和資源综合利用有限公司
- 4 台湾事務所
- 5 PT. Prasadha Pamunah Limbah Industri (インドネシア)
- 6 Technochem Environmental Complex Pte. Ltd. (シンガポール)
- 7 DOWA ECO-SYSTEM SINGAPORE PTE.LTD. (シンガポール)
- 8 Waste Management Siam Ltd. (タイ)
- 9 Bangpoo Environmental Complex Ltd. (タイ)
- 10 Eastern Seaboard Environmental Complex Co., Ltd. (タイ)
- 11 GOLDEN DOWA ECO-SYSTEM MYANMAR CO., LTD. (ミャンマー)

DOWAメタルマイン(株)

- 12 バンクーバー事務所
- 13 Cariboo Copper Corporation (カナダ)
- 14 NIPPON PGM AMERICA, INC. (アメリカ合衆国)
- 15 メキシコ事務所
- 16 MINERA TIZAPA, S.A. DE C.V. (メキシコ)
- 17 Nippon PGM Europe s.r.o (チェコ)
- 18 DOWA Metals & Mining (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)

DOWAメタルテック(株)

- 19 同和金属材料(上海)有限公司
- 20 DOWA METALTECH (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)
- 21 DOWA Precision (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)
- 22 シンガポール支店
- 23 深圳営業所
- 24 同和利精密部品股份有限公司(台湾)

DOWAサーモテック(株)

- 25 DOWA THT AMERICA, INC. (アメリカ合衆国)
- 26 昆山同和熱処理工業炉有限公司
- 27 DOWA Thermotech (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)
- 28 HIGHTEMP FURNACES Ltd. (インド)
- 29 PT.DOWA THERMOTECH INDONESIA (インドネシア)
- 30 PT.DOWA THERMOTECH FURNACES (インドネシア)
- 31 DOWA THERMOTECH MEXICO S.A. de C.V. (メキシコ)

本社、その他

- 32 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION (アメリカ合衆国)
- 33 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION サノゼ事務所(アメリカ合衆国)
- 34 同和企業管理(上海)有限公司
- 35 同和企業管理(上海)有限公司 深圳分公司
- 36 DOWA HD Europe GmbH (ドイツ)
- 37 DOWA HOLDINGS (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)

DOWAエコシステム(株)

- 1 グリーンフィル小坂(株)
- 2 エコシステムリサイクリング(株) 北日本工場
- 3 エコシステム小坂(株)
- 4 オートリサイクル秋田(株)
- 5 環境技術研究所
- 6 エコシステム秋田(株)
- 7 エコシステム花岡(株)
- 8 ㈱エコリサイクル
- 9 DOWA通運(株)
- 10 メルテック(株)
- 11 エコシステムリサイクリング(株) 東日本工場
- 12 エコシステムジャパン(株)
- 13 ジオテクノス(株)
- 14 イー・アンド・イー ソリューションズ(株)
- 15 エコシステム千葉(株)
- 16 エコシステム山陽(株)
- 17 岡山鉱油(株)
- 18 エコシステムリサイクリング(株) 西日本工場
- 19 エコシステム岡山(株)
- 20 バイオディーゼル岡山(株)
- 21 光和精鉱(株)
- 22 アクトビーリサイクリング(株)

DOWAエレクトロニクス(株)

- 39 半導体材料研究所
- 34 DOWAセミコンダクター秋田(株)
- 35 電子材料研究所
- 36 DOWAエフテック(株)
- 37 機能材料研究所
- 38 DOWAエレクトロニクス岡山(株)
- 39 DOWA IPクリエイション(株)

DOWAメタルテック(株)

- 40 新日本プラス(株)
- 41 豊栄商事(株)
- 42 DOWA/ハイテック(株)
- 43 DOWA/パワーデバイス(株)
- 44 技術センター
- 45 DOWAメタル(株)
- 46 DOWAメタニクス(株)
- 47 DOWAサーモメタル(株)
- 48 TD/パワーメタル(株)

DOWAサーモテック(株)

- 49 環境技術開発センター
- 50 テクニカル・ソリューション&リサーチセンター
- 51 DOWAサーモエンジニアリング(株) 真岡工場
- 52 DOWAサーモエンジニアリング(株) 太田工場
- 53 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松工場
- 54 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松北工場
- 55 DOWAサーモエンジニアリング(株) 中京半田工場
- 56 DOWAサーモエンジニアリング(株) 豊田工場
- 57 DOWAサーモエンジニアリング(株) 滋賀工場
- 58 ㈱セム

本社、その他

- 59 DOWAテクノリサーチ(株)
- 60 卯根倉鉱業(株)
- 61 秋田工管(株)
- 62 DOWAテクノロジー(株) 関東テクノセンター
- 63 本社
- 64 DOWAグループ名古屋支店
- 65 DOWAグループ大阪支店
- 66 DOWAテクノロジー(株) 西部テクノセンター
- 67 DOWAテクノエンジ(株)
- 68 陽和工管(株)
- 69 DOWAグループ九州支店

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2013年度 2014.3.31	2014年度 2015.3.31	比較増減
資産の部			
流動資産	173,998	180,215	6,216
現金及び預金	5,857	8,517	2,659
受取手形及び売掛金	71,838	73,126	1,288
棚卸資産	77,773	81,597	3,824
その他流動資産	18,529	16,973	△1,555
固定資産	184,719	198,978	14,259
有形固定資産	103,890	107,675	3,785
無形固定資産	11,841	10,990	△851
投資その他の資産	68,987	80,312	11,324
資産合計	358,717	379,193	20,475

流動資産のポイント

原材料及び貯蔵品を中心に棚卸資産が38億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比62億円の増加となりました。

固定資産のポイント

設備投資により有形固定資産が37億円増加したほか、上場株式の時価上昇や、海外投資により、投資その他の資産が113億円増加した結果、前連結会計年度末比142億円の増加となりました。

総資産のポイント

以上の結果、前連結会計年度末比204億円の資産増加となりました。

(単位:百万円)

科目	2013年度 2014.3.31	2014年度 2015.3.31	比較増減
負債の部			
流動負債	131,803	118,817	△12,985
支払手形及び買掛金	34,502	31,041	△3,460
短期借入金	41,521	30,459	△11,061
コマーシャル・ペーパー	10,000	18,000	8,000
一年内償還予定の社債	10,000	—	△10,000
その他流動負債	35,780	39,316	3,536
固定負債	59,927	64,725	4,798
社債	—	10,000	10,000
長期借入金	38,142	28,208	△9,933
その他固定負債	21,784	26,517	4,732
負債合計	191,730	183,543	△8,187
純資産の部			
株主資本	144,910	165,731	20,820
資本金	36,437	36,437	—
資本剰余金	26,362	26,362	0
利益剰余金	87,806	108,630	20,824
自己株式	△5,695	△5,699	△3
その他の包括利益累計額	13,343	21,390	8,047
少数株主持分	8,733	8,528	△205
純資産合計	166,987	195,649	28,662
負債及び純資産合計	358,717	379,193	20,475

負債のポイント

有利子負債を129億円削減したことなどにより、前連結会計年度末比81億円の減少となりました。

純資産のポイント

当期純利益を265億円計上し、配当金の支払いなどを行った結果、株主資本が208億円増加しました。また、その他の包括利益累計額が80億円増加しました。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から5.2ポイント上昇し49.3%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2013年度 2013.4.1~ 2014.3.31	2014年度 2014.4.1~ 2015.3.31	比較増減
売上高	443,985	464,219	20,234
売上原価	382,079	391,509	9,429
売上総利益	61,905	72,710	10,804
販売費及び一般管理費	30,111	33,616	3,505
営業利益	31,794	39,094	7,299
営業外収益	6,736	6,133	△603
営業外費用	3,475	3,190	△285
経常利益	35,055	42,037	6,981
特別利益	490	4,349	3,858
特別損失	2,557	4,570	2,013
税金等調整前当期純利益	32,989	41,816	8,826
法人税等	9,544	15,113	5,568
少数株主利益	134	158	24
当期純利益	23,310	26,543	3,233

損益計算書のポイント

市場・ユーザーの状況や変化に対応し、生産性向上・受注拡大に向けた施策を実行した結果、売上高は前年比202億円増の4,642億円、営業利益は同72億円増の390億円、経常利益は同69億円増の420億円、当期純利益は同32億円増の265億円と増収増益になりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	2013年度 2013.4.1~ 2014.3.31	2014年度 2014.4.1~ 2015.3.31	比較増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,189	38,345	8,156
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,689	△20,321	△1,631
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,341	△16,905	△4,564
現金及び現金同等物に係る換算差額	433	855	421
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△408	1,973	2,381
現金及び現金同等物の期首残高	6,129	5,823	△306
現金及び現金同等物の期末残高	5,823	8,044	2,221

営業キャッシュ・フローのポイント

税金等調整前当期純利益418億円や減価償却費155億円を計上した一方、仕入債務の減少による支出41億円や法人税等の支払い138億円などにより、383億円の収入となりました。

投資キャッシュ・フローのポイント

環境・リサイクル事業を中心とした設備投資168億円や事業拡大のための株式取得62億円などにより、203億円の支出となりました。

財務キャッシュ・フローのポイント

有利子負債の返済及び配当金の支払いなどにより、169億円の支出となりました。

役員



代表取締役社長

山田 政雄



代表取締役

杉山 文利



取締役

中塩 弘



取締役

甲斐 博之



取締役

松下 克治



社外取締役

細田 衛士



社外取締役

小泉 淑子



監査役(常勤)

岩野 和



社外監査役(常勤)

岩淵 順一



社外監査役

武田 仁



社外監査役

中曽根 一夫

執行役員



執行役員
DOWAエコシステム(株)
代表取締役社長

佐々木 憲一



執行役員
DOWAメタルマイン(株)
代表取締役社長

関口 明



執行役員
DOWAエレクトロニクス(株)
代表取締役社長

大塚 晃



執行役員
DOWAメタルテック(株)
代表取締役社長

西澤 春雄



執行役員
DOWAカーモテック(株)
代表取締役社長

住田 敏郎



執行役員
DOWAテクノロジー(株)
代表取締役社長

山田 潔

会社概要・株式の状況 (2015年3月31日現在)

会社概要

創業	1884年9月18日	主な事業内容
設立	1937年3月11日	環境・リサイクル事業、
資本金	364億37百万円	製錬事業、電子材料事業、
DOWAグループの社員数	約5,900人	金属加工事業、 熱処理事業

株式の状況

会社が発行する株式の総数	1,000,000,000株
発行済み株式の総数	309,946,031株
株主数	11,414名

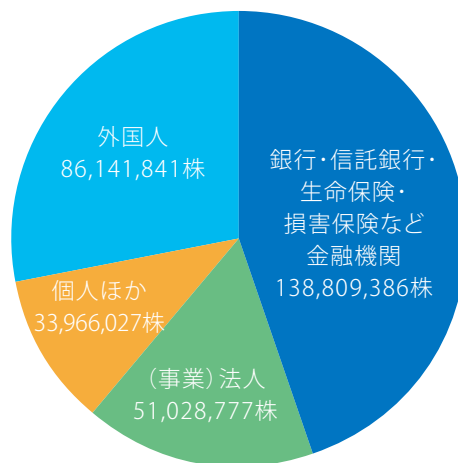
大株主

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8.68%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6.46%
藤田観光株式会社	4.79%
JFEスチール株式会社	3.74%
全国共済農業協同組合連合会	3.06%
株式会社みずほ銀行	2.46%
株式会社りそな銀行	2.43%
資産管理サービス信託銀行株式会社(投信受入担保口)	1.91%
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	1.89%
JUNIPER	1.56%

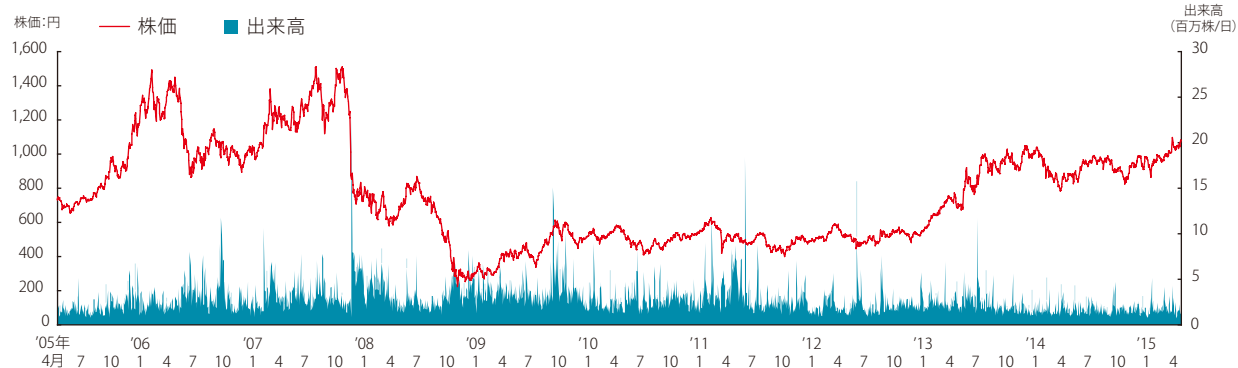
主要子会社

DOWAエコシステム(株)	環境・リサイクル事業会社
DOWAメタルマイン(株)	製錬事業会社
DOWAエレクトロニクス(株)	電子材料事業会社
DOWAメタルテック(株)	金属加工事業会社
DOWAサーモテック(株)	熱処理事業会社

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
基 準 日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
法定公告掲載新聞	日本経済新聞(東京)
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵 便 物 送 付 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	電話番号 0120-782-031(フリーダイヤル)
(ホームページアドレス)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021
東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX22階
TEL.03-6847-1100
ホームページアドレス <http://www.dowa.co.jp>

表紙写真：DOWAサーモエンジニアリング(株)太田工場

